

ライフヒストリー・インタビューによる看護学生の学び —高齢者のイメージに注目して—

成 松 玉 委¹⁾

【要旨】

近年の核家族化により若者が高齢者と接する機会は減ってきており、高齢者に対するイメージは希薄になりやすい。看護者のもつ高齢者のイメージは看護に取り組む姿勢を形成する源になり、看護の質・内容に影響を及ぼすと言われているため、看護学生は高齢者に対して、より具体的な良いイメージをもつことが大切である。本研究では、学生が高齢者の長い生活史の上に築かれた高齢者の生活や価値観を理解する方略としてライフヒストリー・インタビューを取り入れ、学生が学びを記述したレポートからライフヒストリー・インタビューを通して、看護学生の高齢者イメージがどのように変化したかを明らかにすることを目的とした。学生が、ライフヒストリー・インタビューを通して学んだことを記述したレポートをデータとして分析した。インタビューの対象は、祖父母など学生にとって身近な高齢者とし、インタビュー内容は、「生まれた時から今までどのように歩んできたか」をたずねることとした。学生が記述した「高齢者に対するイメージ」に相当する記録単位は 139 であり、インタビュー以前 11 カテゴリー、インタビュー以後 11 カテゴリーが抽出された。記録単位を意味内容の類似性により分類した結果、学生は高齢者に対して、《他者との交流が苦手》、《体力が低下して弱い》、《気力が低下して弱い》、《関心を持ってない》などネガティブなイメージを持っていたが、インタビューを通して、《ありのままに生きている》、《活動している》、《暮らしを楽しんでいる》、《魅力がある》などポジティブなイメージに変化していた。

キーワード：老年看護学、高齢者、ライフヒストリー・インタビュー、イメージ、看護学生

I. はじめに

近年の核家族化により若者が高齢者と接する機会は減ってきており、昭和 55（1980）年では、三世代世帯の割合が 50.1%と、全体の半分程度を占めていたが、平成 25（2013）年では 13.2%と減少傾向を表している（内閣府、2014）。先行調査によると、A 大学看護学科 2 年生

¹⁾ 城西国際大学看護学部看護学科

のうち、高齢者と同居している家庭の学生は 27 人（24%）だった。さらに、何らかの障害を持った高齢者と同居している家庭の学生は 13 名（12%）と少ない（成松ら、2012）。成長過程において高齢者と同居をしていないと高齢者に対するイメージが希薄になりやすい。すなわち、行動はイメージに依存する（滝川ら、1999）といわれており、看護者のもつ老人イメージは看護に取り組む姿勢を形成する源になり、看護の質・内容に影響を及ぼすと言われているため、看護学生にとって、高齢者に対してより具体的な、良いイメージを持つことが大切である。高齢者理解のための教育方法としては、高齢者疑似体験、課題図書、高齢者との交流、視聴覚教材、ロールプレイなどがあるが、ライフヒストリー・インタビュー（以後、LHI とする）を活用することも多い（亀山ら、2011）。

LHI を行った看護学生は、高齢者に興味が持て、受容的態度・肯定的姿勢が持て、情意領域（興味・態度・価値観）の学習効果が明らかになった（櫻井ら、2014）と報告している。LHI は高齢者に対する固定観念的イメージを見直し、高齢者の強さ、充実した暮らしぶり、高齢者がより親しみやすい存在であることに気づかせるのに効果的な学習方法である（小泉ら、1999）。そこで、LHI を活用することは、高齢者のイメージを形成する上で有効な方法の一つと考えられており、高齢者理解のために LHI を活用した教育に関する研究は多く（小泉ら、2000、櫻井ら、2014）みられる。しかし、高齢者イメージの研究はイメージ・プロフィール調査表、評価スケール、質問項目等を活用（小泉ら、1999、小泉ら、2000、櫻井ら、2014）しており、既存の尺度や与えられたイメージについて学生に問うものが多く、学生が記述した言葉を用いて、イメージの変化に注目して質的に検討されたものは少ない。そこで本研究では、学生が長い生活史の上に築かれた高齢者の生活や価値観を理解する方略として LHI を取り入れ、学生が学びを記述したレポートから LHI を通して、看護学生の高齢者イメージがどのように変化したかを明らかにすることを目的とした。

Ⅱ．方 法

1．調査対象

老年看護方法論演習を履修した 3 年次生の研究の同意が得られた 109 名の課題レポートを分析対象とした。

2．調査期間

平成 27 年 4 月 25 日～5 月 7 日

3．データ収集方法

学生が LHI を通して学んだことを 1500 字にまとめたレポートをデータとして分析した。LHI が効果的に行われるためには、信頼関係ができていることが大切である（やまだ、2007、

武藤ら、2004)。このため、インタビュー対象は、祖父母など学生にとって身近な高齢者とし、インタビュー内容は、「生まれた時から今までどのように歩んできたか」をたずねることとした。インタビューの場所や所要時間は特に定めなかった。レポートには、高齢者の現在の生活状態と高齢者が歩んできた長い生活史や高齢者の価値観について学んだことを 1500 字にまとめるように伝えた。

4. 分析方法

レポートの記述内容を精読し、高齢者のイメージに相当する記録単位を抽出した後、個々の記録単位を意味内容の類似性に着目してカテゴリー化し、その分類を忠実に反映させたカテゴリーネームをつけた。分類とカテゴリーネームの妥当性をたかめるために、複数の質的研究者が精読し、老年看護学研究者のスーパーバイズを受けた。それらを、LHI 以前と以後に分類しイメージの変化を検討した。

5. 倫理的配慮

研究対象者に対して、事前に研究の主旨を口頭と書面で説明し、本人が特定されないこと、調査結果を研究目的以外には使用しないこと、不参加により個人に成績等への不利益が生じないこと、得られたデータは匿名とし、研究目的のみに使用し個人情報の保護に努め、個人情報が漏出しないように努めること、研究成果は個人を特定できない状態とし発表を行うことを説明し同意を得た。

本研究は、城西国際大学看護学部倫理委員会の承認（承認番号 27-9）を受けて実施した。

Ⅲ. 結 果

研究の同意が得られた 109 名全員がレポートを提出し（回収率 100.0%）、109 名を分析対象とした。このうち「高齢者に対するイメージの変化」に相当する記録単位は 139 であった。それぞれの記録単位を、学生がレポートに記述した「高齢者に対するイメージ」を、意味内容の類似性により分類した結果、インタビュー以前のイメージから 63 記録単位 11 カテゴリーが抽出された。インタビュー以後のイメージから 64 単位 11 カテゴリーが抽出された。以前・以後が不明なものは 2 記録単位であった。カテゴリーは《 》、イメージの内容は＜ ＞で示す。

1. インタビュー以前の高齢者に対するイメージ（表 1）

学生がインタビュー以前に高齢者に対して持っていたイメージは 11 カテゴリーが抽出され、カテゴリーネームは、《他者との交流が苦手》、《体力が低下して弱い》、《気力が低下して弱い》、《関心を持てない》、《喪失感を抱えている》、《援助が必要》、《暮らしを楽しんでいる》、《魅力がある》、《趣味を持っている》、《人生の先輩である》、《信

念を持っている」に分類された。

《他者との交流が苦手》のイメージの内容は、＜うまくコミュニケーションがとれるか、心を開いてくれるだろうか＞、＜物事に対して、がみがみ言ったりして文句を多く言う人だな＞などと記述しており、11 項目のイメージの内容が抽出された。《体力が低下して弱い》のイメージの内容は、＜体力は衰えていき、仕事もそのうちできなくなる＞、＜活動範囲が狭くなり、身体的苦痛も多くなってきた＞などと記述しており、12 項目のイメージの内容が抽出された。《気力が低下して弱い》のイメージの内容は、＜日常生活の活動性や適応能力に否定的な感情を抱いていた＞、＜衰え、老化などとレッテルを貼られている＞などと記述しており、9 項目のイメージ内容が抽出された。《関心を持ってない》のイメージ内容は、＜高齢者という団体として捉えていた＞、＜年齢が離れているから話が噛み合わない、壁を作っていた＞などと記述しており、5 項目のイメージの内容が抽出された。《喪失感を抱えている》のイメージの内容は、＜身体的悩みが多く、将来の病気のことや死について不安や恐れがある＞、＜知り合いなど、亡くなっている人もいる＞などと記述しており、4 項目のイメージ内容が記述された。《援助が必要》のイメージの内容は、＜老化に伴う機能低下や疾患を持っており、できるだけ強みを見つける＞、＜記憶力は低下するもの＞などと記述しており、2 項目のイメージの内容が抽出された。《暮らしを楽しんでいる》のイメージの内容は、＜のんびりと暮らしている＞、＜気ままに年金暮らしをしたり、自分の好きなことを楽しんでいる＞などと記述しており、6 項目のイメージの内容が抽出された。《魅力がある》のイメージの内容は、＜頑固な方、ほのぼのとした方、気さくな方＞、＜いつも優しく、柔和なイメージ＞などと記述しており、5 項目のイメージの内容が抽出された。《趣味を持っている》のイメージの内容は、＜自分の趣味や興味のあることに取り組み、楽しそうに生活している＞、＜絵を描くこと、旅行、カラオケの趣味をもち、いつも通りの祖母＞などと記述しており、5 項目のイメージの内容が抽出された。《人生の先輩である》のイメージの内容は、＜今まで生きてきた先輩として意見を聞く、助言をもらうことを積極的にする＞、＜長い人生の先輩＞と記述しており、2 項目のカテゴリーが抽出された。《信念を持っている》のイメージの項目は、＜人を頼らない性格＞と記述しており、1 項目のイメージの内容が抽出された。

2. インタビュー以後の高齢者に対するイメージの変化（表 2）

学生がインタビュー以後に高齢者に対して持っていたイメージは 11 カテゴリーが抽出され、カテゴリーネームは、《体力が低下して弱い》、《気力が低下して弱い》、《理解が困難》、《喪失感を抱えている》、《ありのままに生きている》、《活動している》、《暮らしを楽しんでいる》、《魅力がある》、《趣味を持っている》、《人生の先輩である》、《信念を持っている》に分類された。インタビュー以前にあった《他者との交流が苦手》、《関心を持ってない》、《援助が必要》の 3 カテゴリーは消失しており、新たに、《ありのままに生きている》、《活動している》の 2 カテゴリーが加わった。《体力が低下して弱い》のイ

メージ内容は、＜不自由に感じていることが多く、助けて欲しいと思っている＞などと記述しており、3 項目のイメージが抽出された。《気力が低下して弱い》のイメージの内容は、＜若い時のようにはいかず、なかなか思い通りにならない＞、＜日常の小さなことに苦痛を感じている＞などと記述しており、4 項目のイメージの内容が抽出された。《理解が困難》のイメージ内容は、＜前向きなのか、悲しいのか複雑な気持ちになった＞と記述しており、2 項目のイメージが抽出された。《喪失感を抱えている》のイメージは、＜たくさんの喪失感のなかで生活している＞と記述しており、1 項目のイメージ内容が抽出された。《ありのままに生きている》のイメージ内容は、＜物忘れが激しいにもかかわらず、昔のことは鮮明に覚えている＞、＜変化していく身体に合わせながら、自分のライフスタイルを確立＞などと記述しており、8 項目のイメージの内容が記述された。《活動している》のイメージの内容は、＜健康意識が強く、私たちよりも身体を動かしている＞、＜その人なりにやりたいことを見つけ、積極的に活動する＞などと記述しており、8 項目のイメージの内容が抽出された。《暮らしを楽しんでいる》のイメージ内容は、＜上手く適応しながら、楽しみを持ちながら生活している＞などと記述しており、3 項目のイメージの内容が抽出された。《魅力がある》のイメージの内容は、＜聞く姿勢や見る姿勢がきちんとして日本人らしさをもっている＞、＜こだわりがあること、好きなことに関しての知識量の多さ＞などと記述しており、11 項目のイメージの内容が抽出された。《趣味を持っている》のイメージの内容は、＜趣味や人との関わりを大切にし、自分らしくいきいきとして素敵＞、＜自分の趣味や興味のあることに取り組み、楽しそうに暮らしている＞などと記述しており、8 項目のイメージの内容が抽出された。《人生の先輩である》のイメージ内容は、＜今まで生きてきた先輩として意見を聞く、助言をもらう＞、＜人生経験が豊富でアドバイスや人生の教訓を教えてくれる＞などと記述しており、7 項目のイメージの内容が抽出された。《信念を持っている》のイメージ内容は、＜今の自分とポジティブに向き合っている＞、＜どのように暮らしていきたいかを持っていて、とても元気＞などと記述しており、8 項目のイメージの内容が抽出された。

表 1 LHI 以前の高齢者に対する学生のイメージ

カテゴリー	イメージの内容
他者との交流が苦手	上手くコミュニケーションがとれるか、心を聞いてくれるだろうか 物事に対して、がみがみ言ったりして文句を多く言う人だな 昔の考えは必ず正しいなど少し頑固 薬の量が多い、できないことが増える、コミュニケーションが取りづらくなる 暗い 身体の衰えを感じて、日々の生活に途方に暮れて暗いイメージ 耳が遠く、何の脈絡のないことを大きな声で話し同じことを繰り返す 自分の考えを押し通したり、短期なのですぐ怒ったりする 否定的 あまりアクティブではなく、健康的な印象ではなかった 退職してしまうと家に引きこもりがちになる
体力が低下して弱い	病気を持っていたり、歩けない 体力は衰えていき、仕事もそのうちできなくなる 身体が動きにくい方 身体機能が衰え、のんびり過ごしている 健康ではない、杖をついて歩いている、寝ていることが多い、腰が曲がっている 忘れていたのが当たり前と思っていた 足腰が悪く、物忘れが激しい、疾患がある 体力が落ちてきた 活動範囲が狭くなり、身体的苦痛も多くなっていくもの 不全片麻痺があるため自己管理や健康維持に関心がない 若いときにはいかず、なかなか思い通りにはいかない 大半の高齢者は、薬を飲んでい
気力が低下して弱い	身体的にも心理的にも、あまり元気がない、弱い 日常生活の活動性や適応力に否定的な感情を抱いていた 体力や筋力が落ちるため、働くの嫌なのではないか 病気で治療を受けていたり、介護が必要と弱者のイメージ 衰え、老化などとレッテルを貼られている 私たちがやってあげなきゃ1人じゃできない 病気、怪我 年数など数字については覚えていない 昔に戻りたいと、切望しているのだから
関心を持ってない	高齢者という団体として捉えていた 身体的な問題はないと思っていた 高齢者のイメージがなく漠然としていた 年齢が離れているから話が噛み合わない自分が壁を作っていた 高齢者の方の昔のことなど考える機会がなかった
喪失感を抱えている	身体的な悩みが多く、将来の病気のことや死について不安や恐れがある 知り合いなど、亡くなっている人も多い 独居での暮らしは、孤立し、寂しく、閉鎖的 連れ添った人との別れや子供や孫の独立で悲しい、寂しいなどの感情
援助が必要	老化に伴う機能低下や疾患をもっており、できるだけ強みを見つける 記憶力は低下するもの
暮らしを楽しんでいる	のんびりとゆっくり暮らしている ゆっくりテレビをみたり、ご飯を食べたり本を読んだり 幸せな生活を送っていると思っていた 気ままに年金暮らしをしたり、自分の好きなことを楽しんだりしている 健康高齢者はそんなに苦労等がない パワフルでとても元気
魅力がある	頑固な方、ほのぼのとした方、気さくな方 いつも優しく、柔和なイメージ 可愛い 高齢者が好き 日頃から会話をしている
趣味を持っている	趣味などの楽しみをもって生活しているもの 自分の趣味や興味のあることに取り組み、楽しそうに生活している 絵を描くこと、旅行、カラオケの趣味をもち、いつも通りの祖母 テレビをみたり、裁縫をしたり、屋内でのんびり過ごしている ゆったりとした気持ちで俳句をしている
人生の先輩である	今まで生きてきた先輩として意見を聞く、助言をもらうことを積極的にする 長い人生の先輩
信念を持っている	人を頼らない性格

表 2 LHI 以後の高齢者に対する学生のイメージ

カテゴリー	イメージの内容
体力が低下して弱い	不自由に感じていることが多く、助けて欲しいと思っている ご飯を自分で準備していたが辛いと感じているとは驚いた 身体的衰えのように、様々な変化は徐々にやってくる
気力が低下して弱い	若いときのようにはいかず、なかなか思い通りにはいかない 日常の小さなことに苦痛を感じている 苦勞していて悩みも多い 心細さを感じているのだと知った
理解が困難	前向きなのか、悲しいのか複雑な気持ちになった 毎日変化があまりない生活であることに驚きを感じた
喪失感を抱えている	たくさんの喪失体験のなかで、生活している
ありのままに生きている	物忘れが激しいにもかかわらず、昔のことは鮮明に覚えている 人の健康状態というのは年齢だけでは判断できない 変化していく体に合わせながら、自分のライフスタイルを確立 見た目が元気そうでも、誰でも何かの症状を抱えて生活している 身体的な変化が生じて、自分なりに生活を送ることができる 病気と向き合って、病気を受け入れるということは大切 頑固な方、ほのぼのとした方、気さくな方 穏やかだったり、暖かかったりと肯定的な感情を抱くことができた
活動している	健康意識が高く、私たちよりも体を動かしている 健康な高齢者もいることを知った その人なりにやりたいことを見つけ、積極的に活動する 記憶力がすごい、食事が私たちと同じ量 率先して何か行動を起こそうとする人たも多い おしゃべりが好きで、身体を動かすのがとても好きで元気 とてもパワフルで元気でとても強い 活発に自分の好きなことをして生活している高齢者もいるのだな
暮らしを楽しんでいる	上手く適応しながら、楽しみを持ちながら生活している 自分の好きなことを行っている充実した生活 思い出は忘れてしまわないで、楽しい時間を過ごせる
魅力がある	聞く姿勢や見る姿勢がきちんとして日本人らしさをもっている こだわりがあること、好きなことに関しての知識量の多さ 健康意識が高く、世界の動きに敏感、若い人とともにありたい 誰一人として高齢者に同じ人がいない 様々な形で社会に貢献してきた、尊敬というプラスなイメージ 高齢者なりの生き方をし、私たち以上に謳歌した生き方をしている 健康に気をつけて生活していた 知識が豊富で、衰えを感じさせない 大変な思いをしてきたことを知り、祖母を尊敬するようになった それを感じさせないほどに明るく元気 80歳でも介護されることなく自立した生活を送る高齢者もいる
趣味を持っている	趣味や人との関わりを大切に、自分らしくいきいきとして素敵 若者と変わらない熱意で趣味に取り組んでいる 老人クラブに入ったり、催し物に出たり友達との交流を楽しむ 健康で、趣味を持ち、充実した老後を過ごしている方もいる 環境に応じて趣味や好きなことを探して明るく生きている グランドゴルフをしたり、公園に行ったり、身体を動かしている 鼻笛や油絵に興味をもつとは思わなかった 自分の趣味や興味のあることに取り組み、楽しそうに生活してる
人生の先輩である	今まで生きてきた先輩として意見を聞く、助言をもらう 人生経験が豊富でアドバイスや人生の教訓を教えてくれる 将来の夢を見つけた、壁にぶちあたったり長い人生の先輩 人生の先輩で様々な経験と知識を持った方だと感じ尊敬を覚えた 知恵があって、まだまだ自立していけるし、頼もしい存在 とても苦勞した時代を生きてきた 私たちと同じように成人期まで成長し様々な体験をしてきた
信念を持っている	今の自分とポジティブに向き合っている どのように暮らしていきたいかを持っていて、とても元気 高齢者としてひとくりにするのではなく、一人の人間である 高齢男性でも自己管理をしっかり行うことが可能だと知った 自分の好きなことで人の役に立ち、やりがいを感じた方が元気 高齢者になると個性が大切になる 集中力があり、協力的、真面目な部分があることを感じた 「この人の強みはこれかもしれない」とすぐに思える

V. 考 察

看護学生が、高齢者を生活者として理解することを目的に行ったインタビュー後のレポートを、高齢者のイメージに注目して分析した結果、インタビュー以前は 11 カテゴリー、インタビュー後は 11 カテゴリーが抽出された。看護学生は高齢者に対して、《他者との交流が苦手》、《体力が低下して弱い》、《気力が低下して弱い》、《関心を持ってない》、《喪失感を抱えている》などネガティブなイメージを持っていたが、インタビューを通して、《ありのままに生きている》、《活動している》、《暮らしを楽しんでいる》などのポジティブなイメージに変化していた。

インタビューを体験した看護学生のイメージがどのように変化したかについて、LHI 前・後のイメージの変化、LHI と他の教育方法の違いの 2 点に注目して考察した。

1. LHI 前・後のイメージの変化

サイズの合わないパジャマに身体を沈ませて、ベッドの端にずり落ちそうに横たわる高齢者のベッドサイドに立った看護学生が、声を掛けることもできずに立ちすくんでいる光景に出会うことがある。その姿の背景に、豊かな生活があったであろうとイメージできることは、看護学生にとっては重要な要素である。インタビューを実施した大半の学生の身近には、高齢者が居たにも関わらず、ネガティブなイメージを持っていた学生が大半を占めていた。20～60 歳代の 6,000 人を対象に実施した、お年寄りにどのようなイメージを持っているかという問いに対して、「心身がおとろえ、健康面での不安が大きい」と思う人が 72.3%と 7 割を超えて最も高かった（内閣府、2014）との報告に一致する。さらに、老年看護学開講時には多くの学生が、高齢者に対して加齢による身体の変化に伴うネガティブなイメージを持っている（岩井、2010）という報告と共通する。

筆者の実施したインタビュー以前には多くの学生が高齢者に対して、《体力が低下して弱い》、《気力が低下して弱い》、《関心を持ってない》などというイメージを抱き、高齢者を弱者と捉えていた学生は、高齢者との積極的な関わりを躊躇していたと考える。Life History は、個人の現在の生活状態ならびに誕生から現在に至る狭義のライフ・ヒストリー（生活史）の両方を含む内容をいう。インタビュー場面では、温かく親密な関係（ラポール）ができるように、落ち着いた場面の雰囲気と心地よい導入を心がける。現場では問答形式にならないように、語りの主導権はインタビュイー（語り手）におく。インタビュアーは、臨機応変に相手の話の展開に合わせて問いかけ、語りが生成されるプロセスを共に楽しみながら聞く（やまだ、2006）。また、看護学生が、LHI を行うことは、多様な年代や立場の人との援助関係の形成に役立つ（小木曽ら、2010）と述べられている。

学生のレポートには、孫や身近な看護学生の提案を快く引き受けて、高齢者自身の豊かな生活の在り様を生き生きと語る様子が記述されていた。インタビューによる高齢者のイメー

ジは、「《ありのままに生きている》」、「《活動している》」、「《魅力がある》」と、高齢者の生活を受け入れている内容にイメージが変化していた。学生は高齢者に対する尊敬の念を培ったのである。それは、高齢者が多難な生活に対処し、安易な生活を送ってきたわけではないことを学んだからである。高齢者が経験してきた厳しい人生に敬意を表すと同時に、苦しい時代を生き抜いてきた不屈の精神と強靱さに励まされたのである。社会の移行期にある若者にとって、年配者の生き方に触れることは、自らの生き方をデザインする上で重要な学習機会となる（中川、2009）と、LHI の世代間学習としての可能性を示唆しており、筆者の実施した LHI による学習効果に一致する。

（岡本ら、2011a）は、看護学生 3 年生 59 名を対象とした高齢者のイメージを自記式質問紙調査の結果から、授業後の高齢者のイメージとして、健康を管理する、歩くのが遅い、人づきあいをする、独居、感性豊か、遠慮がちなどを上げている。この中には、本研究のインタビュー後の学生が述べたような、「《ありのままに生きている》」、「《活動している》」、「《趣味を持っている》」、「《暮らしを楽しんでいる》」、「《信念を持っている》」などのイメージはなかった。著者が実施したインタビューの結果だけにこのようなカテゴリーがあった。インタビューをした健康な高齢者が、家族や友人のこと、地域のできごとや戦争体験の話を生き生きと話す姿に触れた学生は、「高齢者と、ひとくくりするのではなく、一人の人間である」と捉えている。高齢者の認識に影響をもたらしたであろう、その人の体験したことを聴くことは、学生自身をその体験下に身を置き換えることにもつながっていた LHI は、高齢者に対する固定観念的なイメージを見直し、高齢者の強さ、充実した暮らしぶり、高齢者がより親しみやすい存在であることに気づかせるのに効果的な学習方法である（小泉ら、1999）。LHI は、高齢者個人をより深く理解する学習手段といえる。そして、高齢者の人生の重みや価値を受け止め、高齢者への尊敬の念が自然に生まれることがうかがえた（小泉ら、2000）と述べている報告に共通する。

2. LHI と他の教育方法の違い

初学者への教育効果、老年看護学の学習効果を検討する研究が報告され、授業による経時的イメージの変化や形成に関する報告がされるようになった。（滝川ら、1999）は、老年看護学概論の授業開始時と終了時に、1 年生 49 名を対象に、SD 法による高齢者のイメージ調査結果を量的に分析した結果では、授業前は 4（どちらとも言えない）以上の肯定ゾーンを示したのは『性格』のみで、他の 6 つのカテゴリーは 4 未満の否定ゾーンであった。授業後は、50 項目のうち、「騒がしいー静かな」を除く 49 項目が肯定的な方向に変化していた。また、老年看護学開講日に 2 年生 80 名を対象に、SD 法による老人イメージ尺度 50 項目を用いた初学者の老人イメージの調査結果を量的に分析した結果では、高齢者に対して全体的にマイナスイメージを抱いていた（梶谷ら、2000）。1 年生 82 名を対象に「老年期の健康と看護」の授業開始時に高齢者のイメージについてレポートを記述し、講義終了後にアンケート調査結

果を ICF の概念図の 6 カテゴリーに沿って分類し、質的と量的に分析した結果、開講時には多くの学生が、高齢者に対して身体の変化に伴うネガティブなイメージを持っていた。講義終了後は、62.2%もの学生がイメージではなく学んだことや授業の感想を記載していた（岩井、2010）と報告している。看護学生の 3 年生 59 名を対象として、対象者が高齢者とする年齢と高齢者のイメージを、自記式調査票を配布して集合調査法で実施した結果を量的に分析した結果では、初回科目時は 67.0 歳、最終科目後は 68.06 歳に上昇した。高齢者のイメージ内容は、身体に関する否定的な側面の解答数が 75 から 109 に上昇、社会背景に関する否定的な側面の回答数が 13 から 2 に下降、精神・心理に関する否定的な側面の解答数が 14 から 29 に上昇した。身体的側面において否定的側面からのイメージ想起が多いことは、日常生活動作においてネガティブなイメージを抱く可能性が否めない（岡本ら、2011b）ことを示唆している。これら老年看護学の学習効果についての研究報告は、いずれも、イメージを把握することに留まっており、高齢者に対する看護学生のイメージが拡大するなどの学習効果は得られていない。高齢者が自身の変化をありのままに受け入れて、生き生きと生活する姿をイメージする記述は見当たらない。すなわち、授業のみによる高齢者のイメージ変化には限界があると考えられる。

著者が実施したインタビューの特徴は、インタビュアーと語り手が互いに尊重し合い、共に楽しみ、共に成長する機会にするという効果が明らかになった。LHI は、面接者自身が面接でのやりとりを楽しむこと、対象者が語る人生の物語に敬意と好奇心を持って臨むことが重要である（アンダーソン、H、2001）と述べていることが優れている点として共通し、この研究では、LHI は高齢者をより生活者として捉えるために優れた教育方法であることがわかった。

VI. 終わりに

高齢者が自分のことを肯定的に捉える LHI だからこそ、学生はその言葉を受けてそのイメージがより活動的魅力的なものに変化したと考える。すなわち、高齢者が学生のインタビューに生き生きと答えてくれた体験と、その語りからの学びを 1500 字にまとめる作業を通して、高齢者個々の歴史的背景と現在の暮らしぶりに触れることによって、実像をとらえることができイメージの変化につながったと考える。多くの学生が、レポートの最後は、「高齢者がどのような価値観を持っているのか、何を大切にしているのかを知ることができ、インタビューの機会を持てたことに感謝をします」と結んでいる。多くの学生がインタビュー後には高齢者のイメージがポジティブに変化しているなか、高齢者に対してネガティブなイメージのまま変化をしなかった学生には、過去に体験した否定的なイメージが影響している可能性もあり、それらを把握する教員の対応が必要であり、更に、知識や・体験を効果的に意味づける指導が求められる。この度の調査では、3 年生のみであり分析内容にも偏りがある。

と考える。今後は、さらに対象を拡大して検討する必要がある。また、長期的な視点として、今回の LHI が老年看護学実習に参加する際の学生の姿勢にどう影響するのかを明らかにしたいと考える。

謝 辞

本研究にあたり、調査にご協力くださいました学生の皆様に心よりお礼申し上げます。

文 献

内閣府 平成 26 年度版高齢者社会白書（全体版）

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2014/zenbun/sl_2_1.html

成松玉委、内潟恵子：健康障害を持った高齢者を生活者として理解するための試み—課題図書感想レポートの内容分析—、帝京平成大学看護学部紀要、2012

滝川由美子、吉本知恵、横川絹恵：看護学生の高齢者イメージの変化、香川県立医療短期大学紀要 第 1 巻、51—60、1999

亀山直子、山本美津子、鳴海喜代子：我が国の論文にみる「高齢者理解」のための教育方法に関する動向、武蔵野大学看護学部紀要、5、41—49、2011

中川恵理子：ライフヒストリー・インタビューの世代間学習の可能性、生涯学習基盤経営 第 34 号、99—112、2009

小木曾加奈子、安藤巴恵：看護学生における高齢者理解ライフヒストリーのインタビューを基にした内容分析教育医学、55、(3) 283—292、2010

櫻井清美、尾島喜代美：ライフヒストリー・インタビューを在宅高齢者に行った看護学生の思い—情意領域の学習効果—、第 44 回（平成 25 年度）日本看護学会論文集 地域看護 2014

武藤隆、やまだようこ、南博文、麻生武、サトウテツヤ：質的心理学 創造的に活用するコツ、新曜社、148—154、2004

梶谷みゆき、倉鋪佳子：看護学生の老人イメージに関する研究、島根県立看護短期大学紀要 第 5 巻、101—107、2000

葉師寺文子、川崎裕美、森田愛子、檜原登志子：効果的な老人理解に関する看護教育方法の検討—学生のイメージをベースとした実習指導案—、広島県立保健福祉短期大学紀要、4（1）35—45、1999

滝川由美子、吉本知恵、横川絹恵：看護学生の高齢者イメージの変化—老年看護学概論の授業前・後の比較、香川県立医療短期大学看護学科、第 1 巻、51—60、1999

小泉美佐子、伊藤まゆみ、宮本美佐：老年看護学の対象理解にライフヒストリー・インタビューを取り入れた学習効果、老年看護学、Vol. 5 No.1、2000

やまだようこ：質的心理学の方法、新曜社、124—143、2007

内閣府 2014 平成 15 年度 年齢・加齢に対する考え方意識調査結果の概要「高齢者のイメージ」

www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15_kenkyu/gaiyou.html

岩井恵子：看護学生が持つ高齢者のイメージ、関西医療大学紀要、Vol.4、110 - 121、2010

小泉美佐子、伊藤まゆみ：ライフヒストリー・インタビューによる看護学生の高齢者イメージの変化—高

齢者一般のイメージとインタビューに応じた高齢者像の比較から—群馬保健学紀要、19、31—36、1999

小泉美佐子、伊藤まゆみ、宮本美佐：老年看護学の対象理解にライフヒストリー・インタビューを取り

入れた学習効果、老年看護学、Vol.5 No.1. 2000

岡本麗子、榊原千佐子、小堀ゆかり、高岡哲子：老年看護学における看護学生が捉えた高齢者イメージ

の変化—2 年次から 3 年次の分析を中心に—、北海道文教大学研究紀要、第 35 号、p65—72、2011

Anderson.H :Conversation, Language, and Possibilities, A postmodern approach to therapy, Basic Books, (野村

直樹他訳)『会話・言語・そして可能性』金剛出版 2001 年

What Nursing Students Learned from Life History Interviews

— Focusing on the Image of Elderly People —

Tamai Narimatsu

Abstract

Opportunities for young people to interact with elderly people have decreased as the trend towards nuclear families has increased in recent years, resulting in a very tenuous impression of elderly people. Since the image of elderly people held by nursing attendants becomes a source of forming a professional attitude, which can affect the quality and content of nursing, it is important for nursing students to have a concrete good image of elderly people. The aim of this study was to report acute, life history interview as a method for a student to understand life and the sense of values of the elderly person, with the objective of demonstrating how the image of elderly people held by nursing students shifted through life history interviews, according to reports provided by students describing what they had learned. The reports written by students describing what they had learned through life history interviews were used as a data source and analyzed. Interviews were conducted with elderly people close to the students, such as their grandparents, using the question, “What kind of life have you lived from the day you were born until today?” The recording unit corresponding to “the image of elderly people” described by the students was 139. The interview previous 11 category has been extracted, The interview after 11 category has been extracted. As a result of classifying the recorded units into groups based on similarities in terms of semantic content, it was revealed that while the students had negative images of elderly people such as “weak in the interchange with others, Physical strength decreases and is weak, Willpower decreases and is weak,disinterested” prior to the interview, this shifted to positive images such as “truth alive, Active, enjoying life, Attractive” through the interview.

Keywords: gerontological nursing , elderly people, life history interview, image, nursing students